

# 窓

## — 同窓会だより —

No. 90 (平成 22. 8. 13刊)

富山県立魚津高等学校同窓会



「富山湾その波に…紅はわが心…」  
私は確かに聞いた。薄暗い酒場で酔いつぶれて頬をカウンターにつけ、眠りながらつぶやくように歌った中年の男性。

もう三十年近くも前のことだ。ワシントンに仕事で半月ほど滞在したときのことである。雪のちらつく寒い日、私はナイヤガラ滝を見に出かけた。夕方の便でワシントンに戻る予定だったがその便は休航になってしまった。次の便まで四、五時間あるという。ホテルに隣接するバーで同僚と二人で飲んでいたらその男が急に歌い出したのであった。

魚津高校OBに違いない。私は彼の肩に手をかけて何度も揺り動かした。しかしその人は目を覚まさなかった。かなり泥酔しており相当に疲れているようでもあった。後ろ髪を引かれる思いでバッファローを発ったが、その後にも北米に出張すると彼を想い出し、ひよつとしたら会えるのでは、と思ったりした。



### 紅はわが心

— バッファローの思い出 —

同窓会長 中尾 哲雄

ない、と勝手に想像した。

昭和三十年代からわが国は貿易によって高度経済成長を遂げてきたが、それを支えてきたのは多くのビジネスマンたちである。国を離れて憧れの海

外で多くの感動、感激を味わい、そして仕事の達成をよろこび、ビジネスマンとしても大きく成長したことであろう。

しかしながら一方で、時にはさびしさに耐えかねて涙を流し、仕事に失敗して落胆の淵から這い上がることで、きない者も多くいたはずだ。私は現実にもその多くを見てきた。そしてこの彼もきつとさみしい思いをしているのだと思った。そんなときにいつも彼は「紅はわが心…」と歌っているに違いない。

て心の支えはいろいろあるだろうが、共通しているのは、「母校」ではなからうか。それ故にみんなが愛着をもち誇りのもてる「ふるさと」「母校」でなければならぬ。

いま、富山県ではふるさと教育の推進を検討している。私はその会長をつとめているが、富山の歴史や偉人などについて学び、みんなに富山に誇りをもってもらいたいからだ。ふるさとを愛し、誇りをもっている人は悪いこともないしと確信している。また、ふるさとのうた、みんなが楽しく歌う歌をつくることも検討している。

乾いた詞と無機質な曲による子どもや若い人々の歌が溢れている現代、懐かしい富山の抒情を詩情豊かに綴る「ふるさとのうた」を是非ともつくりたいと思う。

さて、経済、情報、文化等の大都市への集中、国際化の進展のなかで多くの若者達がふるさとを出て行った。いまもその動きは止まらない。月の半分を東京で生活して思うことは、たくさん都会人たちが生きていく心の拠りどころを失って浮き草のようになっていくということである。人には精神の居場所、心の支え、根拠が必要だと思う。私はそれが、ふるさとであり、母校だと信じている。それぞれの人によつ

バッファローの彼はいまだどうしているだろうか。「富山湾の波に遥かなる夢を求めて、紅の情熱をわが心として努力し、立派な成果を上げ、幸せな余生を送っていることだろう。永く生きてきて、この魚高に学んだことをいまさらのようにしみじみと幸せに思うのである。

(インテック会長 魚高七回卒)

## 憩いの場・中庭



吉田 幸市

昨年の四月に母校に赴任してから毎日のように中庭を眺めている。手入れが行き届いたきれいな中庭で、春先には生徒が楽しげに弁当を広げる姿も見られ、憩いの場として貴重な存在となっている。旧い校舎時代のデザインのままの池を中央に、春はきれいな花を咲かせるフジやサクラ、秋には紅葉するハウチワカエデやブナなど四季折々に目を楽しませてくれる樹木が美しく配置されている。

現在の中庭は平成十年の改修で、ピオトープを中心としたデザインになっているようだ。自然が豊かな、生徒の憩いの場となることを狙って設計されたものだが、反面、手入れが大変である。小川の周りにはいわゆる「雑草」が生茂り、水中には「藻」が繁殖し、蚊の発生などの苦情が寄せられることもある。また、樹木についてもカイドウなど虫がつきやすく、通常は庭木としてあまり用いられないものも植えてある。しかし、こうした手のかかる中庭だからこそ、意外に多くの野鳥が見られるのである。シジュウカラやセグロセキレイ・ヒヨドリ・カワラヒワなどから、コマドリやヤマガラのように春先の早朝に見かけるもの、時折迷い込んだように姿を見せるイソヒヨドリなど、興味を持って観察すると市街地とは思えないくらいにさまざまな野鳥を観

察することができる。これまで勤務した学校と比較しても、種類・数ともに豊かな自然を感じさせてくれる。

労を惜しまず、手間をかける。その積み重ねにより、華やかさには欠けるかもしれないが、本物を得ることができる。この中庭の設計方針は、本物を志向する本校の伝統と無縁のものではないだろう。即効的な効果は期待できないが、細かくて面倒なことにこそ意識的に取り組めと先輩方に諭されているようだ。中庭で癒された分だけ、労を惜しまず努力したいものである。(魚高三十二回卒)

## 近畿地区魚高会合同懇親会

## 「日米同盟の落とし穴」

兵庫魚高会長  
室 澤 基 範

近畿地区魚高会合同懇親会は五月二十九日(土)ラマダホテル大阪で、大阪、兵庫、奈良、滋賀の各府県より約五十名が参加して開かれた。合同懇親会に先立ち、特別講演会として、毎日新聞副社長観堂義憲さん(魚高十七回卒)の「日米同盟の落とし穴」とのテーマでの講演に同窓生が熱心に耳を傾け、時事問題について理解を深めることができた。講演内容は、一九七〇年代以降の中近東情勢をはじめ、タリバンによる対米テロ活動まで広範囲に及び、日本の安全はアメリカに頼らざるを得ないが、アメリカは最後には日本を救ってくれないとの結論に参加者一同ビックリ。

懇親会は、黒田富雄大阪魚高会長の挨拶、筒井慎一校長の「伝統を大切にし、よりよい学校づくりを進めたい」との母校近況報告、高三孝成関西魚中会長から「国を守る気概がほしい」、各府県会長から母校に対し厳しい檄が出されることもあった。

観堂義憲さんの乾杯で懇談に入り思いついた話に花が咲く頃、ラグビー部OBの松原純二さんよりラグビー部OB会の結成、母校ラグビー部の部員不足、ちびっ子ラグビー愛好者の育成等についての報告があった。校歌斉唱、万歳三唱と続き、三井信義大阪魚高会副会長の閉会の言葉で散会となった。

特別講演会前に、近畿各府県魚高会総会がそれぞれ開かれ、各府県内での諸案件について審議され、交流会、研修会について具体的な日程、内容等話し合われた。平城京

一三〇〇年  
祭の奈良、  
世界遺産巡  
りの兵庫、  
第四回近畿  
交流会担当  
の大阪、そ  
れぞれの府  
県での取り  
組みが進め  
られている。  
(魚高六回卒)



## 記念植樹

去る三月一日、同窓会入会式後、前庭にて『創立111周年記念植樹』が行われた。

中尾同窓会長、千田副会長、若林幹事長と、筒井校長、生徒会長政二君、副会長萩原さんが樹木の根元に土を入れ、植樹後、政二君が謝辞を述べた。植樹されたのはモチノキ科の「クロガネモチ」で、六月に白い花を咲かせ、十一月に赤い実をつける。実がなり、小鳥が来る木ということで選ばれた。





## 同窓会幹事になって 思うこと



池原谷 幸志郎

魚津高校を卒業してはや二十数年、同窓会幹事の打診があったのは高校時代の記憶も薄れてきていた昨年のことでした。思えば魚津高校の同窓会のホームページを何気なく覗いたとき、四十一回卒業生代表にいつの間にか私の名前が載っていることに疑問を感じていたこともあり、私で務まるのか？ということ、何をやるのかもまったく解らない事が相まって大変不安に感じました。しかし引き受けてしまったからには行動しなければなりません。高校の同級生といっても、普段から付き合いのある人を除いては連絡を取ることすらなかったのですが、「やあ久しぶり、俺わかる？」という感じで、県内に住んでいて連絡先がわかる同級生に事情を説明し、協力をお願いしました。ほとんどの人が仕事や子育てに忙しいにもかかわらず二つ返事で引き受けてくれ、仕事を分担してくれました。チケットの販売に関しても、知っている先輩方に「今年の幹事学年なんですよ。」と話しかけると「おう、チケット協力するからもちこいよ。」と声をかけていただいたり、話している後輩だと分かると快く一枚協力してもらったりもしました。そのたびに魚津高校が、多くの卒業生を輩出していること、そして同窓生が共有している愛校心を感じました。

(魚高四十一回卒)

## 二十年ぶりの校舎にて

窪田 洋一



先日、およそ二十年ぶりに魚津高校の校舎の中に入る機会がありました。正面玄関から職員室までの短い道中でしたが、自分の記憶とは違う、色あせた壁の色や

建物の傷みを目にして、二十年という時間の長さを実感させられました。しかし、なぜか寂しさは感じず、どこか温かい気持ちになったのは、きつとその色あせや傷みが、多くの魚高生(自分もその一人ですが)に有意義な高校生活を与えてきた証として感じ取れたからだと思います。

## アフターの子育て

大割 美穂子

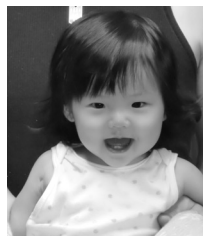
昨年、遅ればせながら私は初めての出産をしました。現在は育児休暇取得中で、一歳になった娘相手に日々奮闘↓すぐ息切れの毎日です。体力の衰えは著しく、一日中何をやるにも「ヨイショ、ヨイショ」...。家で子供と二人で遊んでいてもなんだかすぐに疲れてしまうので、子育て支援センターにも足を運びます。他のママさんたちとおしゃべりし息抜きをしたりしますが、そこでも年齢の壁にぶつかります。肌の張

あれから21年  
こんな毎日です  
(41回生より)

## 地域活動の日々

吉澤 浩司

ろくに勉強もせず高校生活を送っていた私。三年間で卒業できたことが奇跡のようにも思えます。平成元年に卒業し、大学生活四年、就職して七年を東京で過ごし、平成十二年に富山へ戻り現在に至っています。家業の吉沢工業は身近なレジ袋やゴミ袋から産業用、医療用包装フィルムの製造販売を行っており、その中で私は営業責任者として日々県内外を飛び廻っています。



りや服装など外見的なギャップは勿論、言葉遣いや自らの幼少期のことなどビミョーに話はずれることがしばしばあり、何となく作り笑いで話をあわせませんが、変な汗をかいてまた疲労します。

「子供のためにも健康で長生きしないとね。」と夫と話しつつ、少しずつ寿命が縮まっている気がする今日この頃です...



ウォー太郎と踊る  
子供よさこい「わっしょい黒部」

さを体感しながら地域の発展を目指して様々な活動を行っています。

## 門前の母...いつのまにか

神谷 貴代

嵐の歌を歌うことができるボケモンの映画も楽しい、好きなキャラもいる

何故かキャッチボールもうまい  
天海祐希の「ゴールド」が爽快だ



最近ママに似てきたと言われる娘と  
息子です(本人はショックらしい)

卒業してから二十一年、社会という大海原に漕ぎ出し、奇跡的に親となることで振り返る事無く走ってきて、ふと思う。私は、自分の子供の人生に便乗して再び青春を生きているのかもしれない。特に興味が無い事でも親となれば、何でもやるしかない。というわけで、もう卒業したが、歴代の歌のお姉さんやお兄さんは一方的に旧知の仲だし、スキーも水泳も、教える、連れて行くという名目の元についてまでも現役でいるしかない。

ただ、意外とやってみると楽しい。「娘が見たいって言うてるし」を殺し文句に、宝塚大劇場にいそいそと赴き、「息子が見たいって」を合言葉にスポーツ観戦、参戦は常套手段と化しつつある。

でもやはり、高校生を見かけると思う。当事者は大変かもしれないけど、自分のことだけに集中して何でも可能だと思える時代って、とても貴重でキラキラ輝いている。



吹奏楽部定期演奏会  
4月25日(日)新川文化ホールにて



男子バスケットボール部県高校総体で準優勝  
6月6日 県西部体育館にて



応援部(チアリーディング)発表会  
6月13日(日)本校体育館にて



全国大会出場を決めた県高校放送コンテスト(アナ・朗読)決勝  
6月20日(日)国際大学付属高校にて



守備、打撃共に、  
観客を湧かせた杉本

夏の全国高校野球選手権大会富山県大会、3回戦は桜井高校と対戦。本校は惜しくも2対4で敗退した。  
7月23日 城光寺球場にて

## 魚高祭のお知らせ

9月17日(金)

午前 … 校内公開

午後 … 一般公開 (12:00~16:00)

18日(土)

一般公開 (9:30~15:00)

### スローガン

「想いを繋げて踏み出せ一歩」

### テーマ

「スタート 〜地球・愛〜」



## 心に残る魚高祭を

前期生徒会長 嶋 野 愛 子

今回のテーマには、魚高祭をきっかけに私たちは変化する、また人とのつながりを広めようという意味が、スローガンには、魚高全体が未来に進んでいこうという意味が込められています。どの生徒にとっても最初で最後の魚高祭です。生徒一人一人、先生方、そして来てくださる全ての皆さんの心に残るような魚高祭を全校生徒で創り上げていきます。是非お越し下さい。



富山県立魚津高等学校同窓会

〒937-0041 富山県魚津市吉島945番地

TEL (0765) 22-0221

FAX (0765) 22-9970

同窓会ホームページ

<http://www.nice-tv.jp/~gyokou/index.html>

魚津高校ホームページ

<http://www.uozu-h.tym.ed.jp/>

## 原稿募集のお願い

本校同窓生で「こんな方を知っている」「こんな方が活躍している」という方はいませんか? 自薦・他薦は問いません。原稿をお寄せ下さる方募集しています。